

★ 今年度の受験生諸君へ！

1次試験 お疲れさまでした。試験後に相談室へ報告に来てくれた人の感想を聞いたり論文の復元答案を見たりした限りでは、論文はほぼ全員合格ラインに達しています。また、筆記試験も大半の人が手応えを感じています。指導した身としては、大変嬉しい限りです。大学では、2次試験に向けた面接練習が1次試験の翌日7月15日から始まっています。悔いの残らぬよう十分に準備をしてください。そして、2次試験に模擬授業があったり面接票や単元指導計画の提出を求められたりする場合は、単元の選択や必要書類の作成に追われます。早めに下書きを始めてください。書いたら添削します。書類の書き方は、「面接極意書（詳細編）」に書いてあります。

★ 来年度以降の受験生諸君へ！

Q：教員採用試験合格に向けて、君たちは何と闘わなければならないのでしょうか？

A1：自分の甘さと不安

「落ちたら大学院に行く」「ダメなら来年受ける」「準備をしなくても何とかなる」など、何かと理由を付けて教員採用試験勉強から逃げていませんか。7月が1次試験、10月が最終合格発表、そして、赴任先が決まるのはナント3月末。周りの友人がどんどん企業に内定する中、教職への熱意が問われる1年間になります。でも、全ての教員がこの試験に耐えたのです。君たちにできないはずがありません。まさに、気合いです！

A2：採用試験の理不尽さ

「なんで高校の数学教員になるのにポッティチェリの絵を知らなくちゃならないの????」「審議会の細かい答申書、現職の先生だって読んだことないんじゃないの?」と言いたくなりますよね。その気持ちは、よくわかります。でも、それが現実なのです。ある意味、世の中おかしなことだらけです。でも、皆さんは、生徒たちをそーゆー世の中には送り出すのです。世の中の理不尽さにあえいだ経験があるからこそ生徒に寄り添えるとは思いませんか。

A3：R大生？

私も関係者ですが、R大学の理学部と理工学部の学生の大半は教員志望です。毎年200人近く（東京都だけでも30人程）が教員になっています。しかも、全員が中高理科・数学です。つまり、君たちと完全に力をつけているのです。極端に言うと、R大生に勝てなければ君たちが中高理科数学教員になれる可能性はないのかもしれませんが。まさにR大生は、君たちにとってよきライバルです。でも、安心してください。小金井キャンパスの論文講習も論文添削も、間違いなくR大に負けていません。例えば、昨年度1年間で私が添削した論文は403枚です。一人でこれだけの枚数を添削している教員は、どこの大学にもいないでしょう。その結果、毎年論文ではほとんどの人が合格ラインに達しています。面接練習も時間の許す限り行っています。安心して教職課程センターを利用してください。

★ 上記のA1～A3を踏まえた結論：「**合否のカギは、筆記試験にある!**」ということです。教職課程センターでは論文講習はもちろん、学習指導要領講習や教育法規講習も行っていますが、全ての範囲はカバーできません。最後は自分自身で勉強するしかないので、筆記試験の勉強は大学受験勉強と同じで、早く始めた方が断然有利です。法政大学に入学できた力があれば、教員採用試験の筆記試験には必ず合格できます。これまでの失敗例では、準備を始めるのが遅かったために試験までに間に合わなかったのがほとんどです。下記のとおり、8月下旬に学習指導要領講習、9月上旬に教育法規講習を行います。特に3年生諸君は、この講習に出ることをきっかけに筆記試験の準備を始めてください。あわせて、既に論文講習を受けた人は20回以上の添削を目指してください。

【お知らせ】※下記の(1)(2)とも講習動画を撮る予定です。後日、それを貸し出します。

(1) 2020年度以降の受験生向け「**学習指導要領講習**」：全2回。同じ内容。1回受講すれば十分。

1回目 8月28日(水) 2限 10:50～12:30 2回目 8月30日(金) 2限 10:50～12:30

(2) 2020年度以降の受験生向け「**教育法規講習**」：全4回。異なる内容。4回全部受講することが望ましい。

1回目 9月4日(水) 3限 13:20～15:00 2回目 9月4日(水) 4限 15:10～16:50

3回目 9月6日(金) 3限 13:20～15:00 4回目 9月6日(金) 4限 15:10～16:50



《公立学校教員と私立学校教員の違い》

★ 公立学校と私立学校の教員は、どう違うのでしょうか。比較してみましょう。国立学校はほとんど新採教員を募集せず、経験者を採用することが多いので省きます。

※ 内容は、あくまで私の経験や伝聞によるものです。

| 【比較項目】 | 【公立学校】 | 【私立学校】 |
|----------------|--|---|
| 設置者 | 地方自治体（教育委員会） | 理事長（学校法人） |
| 主たる根拠法令 | 地方公務員法 | 私立学校法 |
| 採用方式 （試験内容） | 教員採用選考で候補者を決定 （筆記試験、論文試験、面接試験等） | 求人票や私学適性検査名簿から募集 （筆記試験、模擬授業、面接試験等） |
| 初任給 | （東京都の例）2019年4月1日現在 ○小中高とも 約248,700円 ○特別支援学校 約261,700円 | 学校によって異なる。 ○ほぼ公立学校並み。○基本給は公立学校並みだが、各種手当は公立より高い。○公立学校並みより低い。 など |
| 勤務時間 | 1日当たり 7時間45分 1週間当たり38時間45分 | 学校によって異なる。公立学校教員より長いこともある。 |
| 超過勤務手当 | 給特法のため、残業手当は全く出ない。 | 残業手当は出る（はず？） 「公立並」と称して出さない学校あり。 |
| 年次有給休暇 | 4月1日採用の場合は、年間20日 1時間単位で取得可 通常、2年目からは年間40日 | 学校によって異なる。 ○年間10日が多いと聞く。 ○時間単位の取得ができない場合がある |
| 昇給 | 定期昇給：1年で約5,000円 必ず賞与（ボーナス）がある。 （6月、12月、3月） 他に成績昇給等がある。（業績評価による） | 学校によって異なる。 ○勤務状態や成果によって理事長が決めることが多いと聞く。 ○経営状態によっては、賞与に影響がある。 |
| 昇進 | （東京都の例） ○主任教諭（30歳以上）○4級職：主幹教諭・指導教諭（34歳以上）○指導主事（主任教諭経験2年以上）○副校長（主幹教諭経験39歳以上）○校長（59歳未満） | 学校によって異なる。一定年数経験した後、校長から命じられることが多い。 ○学年主任、分掌主任、生徒募集担当 ○副校長・教頭（ごく一部の教員） ○校長は、公立学校の退職校長が来ることがある。 |
| 研修 | ○初任者研修（1年目義務） ○中堅教諭等資質向上研修（10年目義務） ○教育委員会主催の研修（昇任時義務） ○教科等の研究会（任意） など | ○新規採用教員研修（1年目義務） ○私立学校協会等が主催する研修（任意） ○教科等の研究会（任意） など 義務研修は少ない。 |
| 異動 | （東京都の例）公募による異動制度もあり。 ○新採1校目は4年～5年で必異動 ○2校目以降は6年で必異動 | 学校によって異なる。 異動せず定年まで勤務することが多い。 大学付属校は、附属校間での異動あり。 |
| 教員間の様子 | 派閥は少ない。 | 派閥がしやすい。 |
| 中学校・高校間の連携 | 中高一貫教育校以外は、比較的薄い。 | 中高一貫教育校が多い |
| 進学指導・進学補習 | 学校によるが、増加の傾向。 | 学校によるが、都内は概ね進学校化傾向。 |
| その他 | 非違行為（服務違反）等がなければ、定年まで勤務できる。 | 学校の事情によって雇止め（雇用停止）されることがある。 |

★ このように、公立・私立それぞれによさや特徴があります。要は、自分との相性です。生徒として入学するのではなく教員として働くわけですから、「生徒の様子」「教員の様子」「管理職の様子」（私立の場合は更に「経営状態」）が重要です。具体的には、生徒がヤンチャなのかまじめなのか、教員は仲よく、互いに高め合おうとしているのか、校長や副校長の学校経営は生徒や教員を大切にしているか、不況の時にリストラされないかなどです。実際に学校を見学して、よく見てみましょう。でも、せっかく教員採用選考を受けるチャンスがあるので、併願でもいいので、公立学校教員にチャレンジしてみませんか！全力で支援します。

